

【評価実施概要】

事業所番号	191200021		
法人名	株式会社 橙果舎		
事業所名	グループホーム こもれびの家		
所在地	〒061-1355 北海道恵庭市島松寿町1丁目16番5号 (電話) 0123-36-8477		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年12月2日	評価確定日	平成21年12月16日

【情報提供票より】(平成21年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 13人, 非常勤 7人,	常勤換算 4.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2 階 建ての	1 ~ 2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	水高熱費18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		986 円	

(4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護 1	3名	要介護 2	4名			
要介護 3	5名	要介護 4	5名			
要介護 5	1名	要支援 2	0名			
年齢	平均	85.5 歳	最低	73 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾形病院・島松病院・恵み野病院・みと歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは閑静な住宅街のなかにあり、防風林に隣接し四季折々の自然環境に恵まれている。JR駅から近く商店やスーパーがあり利便性にも恵まれている。建物は全館バリアフリーでエレベーター、スプリンクラー等が設置され安全に配慮されている。職員はチームワークも良く、利用者のペースを大切に優しく接しており、適時に行事を企画して利用者の活力向上をはかっている。家族の信頼は厚い。マニュアルや書類整備も行き届き、日々研鑽している様子が伺える。地域とは日頃から互いに協力関係にありホーム主催の「夏祭り」等を通じて地域の活性化にも貢献しており、親しまれ期待されているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題をとりあげ改善計画シートを作成し改善目標を達成させている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が評価の意義を理解しており自己評価作成に参加している。日々行なわれているサービス内容の検証を詳細に行ない取り組んでいる。外部評価結果は運営推進会議で公表しサービスの質の向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は定期的開催し記録されている。市担当職員、包括職員、地域代表、民生委員、訪問看護室室長、利用者、職員等多数の参加がある。ホーム運営や行事計画、サービス内容、事故事例、防災計画などを書類や画像も駆使して報告し参加者で内容を討議している。会議をとおして避難訓練は地域の人々と合同で実施することができ、更に今後の課題を検討する場となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月一人ひとりに送る手紙や2ヶ月毎に発行している「通信」で利用者の状況を報告している。家族来訪時には話を聴くようにしており、ホーム行事には家族参加をよびかけ交流をはかっている。玄関には苦情箱を設置しており、苦情相談窓口担当者が明示され、家族の意見は運営に反映されるように配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し鳴子祭など地域行事に参加している。日頃から清掃、除雪協力などで近隣とは馴染みの関係が築かれている。実習生やボランティアも受け入れている。防災訓練は地域の人々と共に実施し、ホーム主催の「夏祭り」では多数の近隣住民の参加があり、地域とは常に協力、連携関係が保たれている。

2. 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一員として地域住民との連携を図り、安心して暮らせる家庭的な生活環境とサービスを提供するよう事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念のひとつである「目配り、気配り、心配り」の標語を額に入れて居間や玄関に掲示し職員の認識の共有を図り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地元の鳴子祭りに参加している。地域の清掃や除雪作業に参加、回覧板の利用など馴染みの関係が築かれている。防災訓練では地域の人々の参加がみられた。ホーム主催の夏祭りでは100名近い地域住民が参加する等、地域の活性化にも貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員自己評価・外部評価の意義を理解している。日頃行なわれている全体会議やユニット会議で評価内容を検討し、改善計画シートを作成し、評価結果を活かしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度定期的開催され記録されている。市担当課職員、地域代表、包括職員、民生委員、利用者、職員等が参加し、ホーム運営内容や行事の説明がなされ、討議されている。避難訓練については地域との連携について検討され効果をあげている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課とは相談・情報交換を行い常に連携を図っている。運営推進会議の市職員参加と共にグループホームネットワーク会にも市の協力があり、共にサービス向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月手紙で利用者の状態を報告、出納簿は家族の捺印をとり確認している。2ヶ月に1度「こもれば通信」を発行しホーム行事や生活状況を写真入りで報告している。心身の変化や通院等については随時報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には苦情箱を設置し、ホームに苦情相談担当者を設けている。家族来訪時にはできるだけ意見を聴き、家族の意見が運営に反映できるよう取り組んでいる。又重要事項には第三者の苦情窓口連絡先が明示してあり、入居時に説明している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については最小限に抑えており、日頃から利用者との馴染みの関係を大切にケアを行なっている。ホーム敷地内の隣接家屋において保育士による職員の子供達の託児が行なわれており、若い職員達の就労意欲を継続させ離職を防いでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験年数や能力等に応じて研修に参加するように努めており、研修希望者には勤務調整を行い参加の機会を確保している。研修結果は会議で発表する等して情報を共有している。資格取得についても支援している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>恵庭市グループホームネットワークの会を立ち上げ、情報交換、研修、親睦をはかり相互のサービスの質の向上に取り組んでいる。必要に応じて陳情活動を行なうこともあり積極的に活動している。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員が自宅訪問し本人、家族と話し合い、意向を確認し、サービス開始前にホーム見学をして雰囲気に馴染み、納得してサービスが受けられるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>喜びや悲しみの思いを共感する関係を築いている。職員は利用者を人生の先輩として尊敬の念をもち、共に暮らすなかで夫々の得意分野で力を発揮してもらうよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃の利用者の言動などから、意向や希望を把握するように努めている。把握困難な場合は職員間で情報交換したり、家族からの意見を参考にして利用者本人の視点にたって検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者、家族の意見を聴き、日頃の関わりあいの中からより良く暮らす為の希望やニーズを汲み取っている。毎月行なわれるミーティングで職員全員と意見交換し、関係者と情報交換を行い、担当職員、計画担当職員が中心となり介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に3ヶ月毎の見直しを行なっている。本人、家族からの要望や、心身に変化が生じた場合は医師、看護師、職員、関係者と話し合い随時現状に即した介護計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院への付き添い、買い物、外出、自宅宿泊への送迎など、利用者や家族の要望に応じて家族と連絡をとりながら柔軟な支援を行なっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	2週に1度定期的に医師の往診があり訪問看護師と共に健康管理を行なっている。利用者希望のかかりつけ医については通院支援をする等、常に適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	利用者の重度化や終末期への対応については、早い段階から本人、家族、医師、関係医療機関、看護師、職員、関係者と話し合い全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にして言葉かけや動作に配慮している。個人情報記載の書類等は個別にファイルするなど適切に管理されている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	一人ひとりの生活習慣や意向を尊重し、体調に配慮しながら、できるだけ希望にそえるよう環境を整えている。食事、入浴、就寝時間については利用者の意思を尊重した生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活に大切なものと捉え、一人ひとりの力を活かしながら献立作成、買い物、下ごしらえ、調理、後片付け等を行なっている。職員と利用者が共に食卓を囲み、談笑しながらの食事は1日の大切な楽しみとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決めていない。希望により日中の他夜間も対応している。浴槽の湯は1人ずつ交換しており快適に入浴を楽しむことができるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や希望を把握して、役割や楽しみごとがあるように場面設定に配慮している。調理、庭仕事、買い物、散歩、清掃などの役割の他、趣味の習字、ホーム行事への参加等で生活に喜びがもてるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣散歩の付き添い、希望による外出支援を行なっている。ホーム行事では花見、ドーム野球観戦、家族参加の日帰り温泉旅行が実施されており、負担がかからないように配慮しながら利用者の外出支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に外出できるように日中玄関や居室に鍵はかけていない。安全確保の為夜間は施錠することもあるが、できるだけ自由な雰囲気の中で生活できるよう行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回避難訓練を実施している。町内会に連絡し地域の人々と共に訓練を行なっている。ホーム内にはスプリンクラーが設置されており、非常通報装置の配備で職員への連絡体制も整っているが、更に夜間体制について検討している。</p>		<p>今後は夜間の避難訓練を想定し、消防署と相談して避難訓練を行うということで期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事・水分摂取量を経過記録に記載し職員や看護師が確認している。食事形態も摂取状況に合わせ工夫している。栄養バランスやカロリーについては栄養士の助言を得ている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間からは防風林が眺められ、四季折々の景色を楽しむことができる。利用者の作品の習字や折り紙、写真が飾られている。廊下など各所に手摺が設置され、トイレは広く車椅子に対応できる。温湿度、臭気、換気に配慮して居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い馴れたベットや家具を持ち込み、家族写真などが飾られている。各室採光状態も良好で明るい。清掃、整頓もゆき届き快適に暮らせるよう配慮している。</p>		

 は、重点項目。